

## 福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（2月分）

留学先大学：ラトガース大学

氏名：内藤 来

### <はじめに>

留学も残すところ約2か月となりました。留学を初めてから個人的にも授業等でも日本のことを勉強することが増えたので、今回は日本の「和」という文化について書いてみます。あまり生活とは関係がないのですみません。論文ではないので引用はざっくりした形になりますが、加瀬英明、馬淵睦夫、田中英道、竹田恒泰さんらの著書などを読んでいます。

### <“和”とは何か>

“和”という文字は“和食”、“和紙”など日本を表す熟語に使われます。また調和、平和なども“和”を使った熟語です。これらの熟語はバランスの取れている状態を表しています。“和が乱れた”という表現は何かのバランスが崩れた時に使われます。しかし日本語でも英語でも“和”という一文字がどんな意味なのか説明するのは難しいと思います。和英辞典で“和”と打つと Harmony と出てきますが、やはり違和感があります。



助言教員の方がラトガースにいらした際に、  
プリンストン大学の周りを見学しました

海外で大使として活躍されていた馬淵睦夫さんはご自身の著書の中で「和の世界観は個人が自らの分を尽くすことによって社会全体の調和をもたらすという思想」と述べています。竹田恒泰さんも、「国民一人ひとりが自分の分をわきまえ、家族のため、地域のため、国のためになにができるかを考えて行動する」ことが“和”の精神だと著書の中で語っています。“分”とは辞書で「分けて割り振られたもの」となっているように、与えられた務めのことです。簡単にすると“和”とは「自分らしくありながら周りとは協調すること」だと思います。

この“和”の精神は一見矛盾しているように見えますが、そこに“和”の凄さがあると思います。なぜなら全員が自分らしくありながら、かつ社会に調和をもたらすことはとても難しいからです。アメリカに留学して半年が経ちますがやはりアメリカ人は自分らしさを前に出す人が多いです。もちろんそれが悪いことではないのですが、そのせいもあってか日本にいた頃に感

じていた社会の調和のようなものを感じることがあまりありません。ただ日本にいるほうが落ち着くからそのように感じる、ということではなくどこかみんながまとまってないような感じを受けます。逆に極端な例にはなるかもしれませんが、北朝鮮のパレードなどで軍隊の一人一人が動きを完璧にそろえて行進している映像をよく見ます。そのような文化もある意味では調和を生むかもしれませんが、すこし強制的なものになってしまいます。このようなことから国民が自分らしくいながら、かつ調和を生むという“和”の精神がいかに特別なものかわかると思います。そしてその“和”の精神の中で日本人をまとめる役割を果たしているのが天皇という存在ではないかと思います。これについてはまた長くなってしまうので、別の報告書で書く機会があれば書いてみようと思います。



友人に日本食スーパーに車で連れて行ってもらいました。お弁当が並んでいます。

自分らしさについて最近、日本の教育や文化は個性を無くす、としばしば批判されています。ただ自分の経験からして友達はみんなそれぞれ個性がありますし、そもそも個性がない人に出会ったことはありません。個人的に個性は身に着けるものでもなければ無くせるものでもなく生まれもったものだと思います。確かに自分も自身の個性について理解しているとは思いません。ただ、個性がなくなったりしたことや、変わってしまったことはないと思います。

では何をすれば“和”の精神を実践できるのか、ということと当たり前のことを当たり前にする、ということが“和”の精神につながると私は思います。食事前後のあいさつや、普段のあいさつもそうですし、困っている人に気付いたら助けてあげることや自分より他人を優先することなど、日本人として「美しい」と思えることを普段から実践していくことが“和”の精神の実践なのではないかと思いました。

<おわりに>

留学で日本の外に出ると、やはり自分が日本人だという意識をすることが増えると同時にいかに自分が日本について知らないか痛感すると思います。留学を始めてから日本について勉強し始めたのもその意識の変化があったからです。このような経験は日本にいては絶対にできないことだと思いますし、日本をよく知ることによって海外の文化との違いがより明白に見えてくると思います。この報告書がこれから留学予定の人にも、そうでない人にも日本について学ぼうと思えるようなきっかけを与えられたらうれしいです。